スポーツくじ
toto
BIG

Dance Dance Dance

公益社団法人 日本ダンススポーツ連盟 創立40周年記念式典・祝賀会

平成29年度定時社員総会・理事会

2018年ユースオリンピック ブレイクダンス正式種目採用記者発表会

2017全日本選手権10ダンス

JDSF
公益社団法人
日本ダンススポーツ連盟
Japan DanceSport Federation

2017 No.84
夏

JAPANESE OLYMPIC COMMITTEE
公益財団法人 日本オリンピック委員会

TOKYO 2020

公益社団法人 日本ダンススポーツ連盟(Japan DanceSport Federation)

創立40周年記念式典・祝賀会

2017年6月25日㈰／京王プラザホテル(新宿)コンコードボールルーム

公益社団法人日本ダンススポーツ連盟（JDSF）創立40周年記念祝賀会は、全国の加盟団体代表者をはじめ、ダンススポーツの発展にご支援いただいている関係の皆様方をお迎えし、約750名が参加、盛大に開催されました。

今、世界のダンススポーツ界は2024年のオリンピック参加を目指す大きな流れの中にあります。我が国ダンススポーツの普及・発展のためにご尽力いただいた歴代役員はじめ、先輩諸氏に心から感謝申し上げます。

第一部

第一部の受付開始は13時、ダンスタイムは13時30分から始まりました。“音楽のあるところにはダンスがある、楽しくなければダンスじゃない”。この日の瞬間を待ちわびていたかのように、紳士淑女が装いやステップ、リズムなど、それぞれ個性を表現してダンスを楽しみました。ダンス文化の再構築です。舞踏会は15時半まで続きました。

第二部受付開始

16時30分第二部会場オープン、いよいよ受付が開始されました。入口にはたくさんの生花が飾られ、参加者はドレスアップし、華やかな雰囲気に包まれました。

1977年（昭和52年）4月1日、公益社団法人日本ダンススポーツ連盟(JDSF) は日本アマチュアダンス協会(JADA)として、全日本社会人ダンス連盟、全日本学生舞踏連盟、アマチュア全国選手会の各3団体が結集し、わが国のアマチュアダンス統括組織として発足いたしました。そして　スポーツとしてのダンスの普及、国際的なダンススポーツ組織との関係強化に取り組み、組織が発展する中、

1997年9月	国際オリンピック委員会（IOC）はIDSFを正式競技団体に承認
1999年6月	(財)日本体育協会の加盟(準加盟)
同年7月	日本ダンススポーツ連盟(JDSF)として新体制のスタート
2007年6月	日本オリンピック委員会（JOC）の承認団体から正加盟団体へ
2011年4月	内閣総理大臣から公益社団法人に認定
2015年6月	風営法からダンスの文言が削除されダンス文化の再構築へ
2016年6月	PD(プレミアディビジョン)が発足
同年12月	2018年のユースオリンピック正式競技に決定(種目ブレイクダンス)

と、JDSFは、一歩一歩着実に歩を進めダンススポーツ競技団体として、オリンピック・国体参加も目前になり、ダンス文化の再構築にも具体的な努力・成長そして発展をしてまいりました(JDSF創立40周年記念誌として纏められました)。

第二部ドアオープン

この日を待ちかねた会員やお客様が受付を済ませ、プログラム、公益社団法人日本ダンススポーツ連盟(JDSF)創立40周年記念誌、養命酒、ブルボンのお菓子の入った高島屋の紙袋を手に次々と席に着かれました。

早速、ホールの内外で、ご挨拶や記念写真、そしてあちらこちらで、ご歓談が始まりました。そして平成29年度時総会を終えた役員も皆様のお迎えにあたりました。

ご来賓の皆さま

司会は山本匠晃（TBSアナウンサー）さんと金谷美奈子さん

司会を担当されたのは、現在、競技会の方はパートナーの関係で充電中の山本匠晃（TBSアナウンサー）と金谷美奈子さんです。今日はロペス（岸英明）さんも出席しました(パートナーのキンタロー。(田中志保）さんはお仕事で不参加です)。

居樹保朗式典祝賀会実行委員長(JDSF理事東京都連盟会長）が「日本全国から

お集まりいただいた多くの方々に御礼申し上げます。ご出席の皆様、そして公益社団法人日本ダンススポーツ連盟にとって今宵は素晴らしい一夜になることでしょう！」と宣言し、祝賀会は始まりました。

JDSF齊藤会長挨拶

式に先立ち、役員を代表して齊藤斗志二会長は「先ほどの定時総会で新しい理事役員が決まりました。最初の大仕事です。JADAとしてスタートして40年になります。JDSFは日体協正式加盟・国体を目指しています。日体協はまもなく日本スポーツ協会となります。この機会に是非とも、正加盟を果たしたい。そしてユースオリンピックの正式競技にはなりましたが、さらに前進し“目指せオリンピック・国体参加実現”を果たしたい！」と、熱い決意のほどを語り、開会のご挨拶をされました。

役員一同

ご祝辞

続いて、本日はご来賓として、JDSFオフィシャルパートナーである株式会社ブルボン代表取締役社長、吉田康様よりご祝辞を賜りました。「40周年おめでとうございます。誠に喜ばしく御礼申し上げます。40年前は社交ダンスの社会的地位が低かった時代。踊るスポーツ、観るスポーツとして普及に邁進され、国体参加、オリンピック参加を目指し、全国に支部を一つひとつ作って組織拡充をされ、現在では組織もアマプロ問わなくなっているようですが、これだけ大規模な活動をしてこられたことは大変素晴らしい。弊社は、2010年ダンススポーツがアジア大会出場の際に、選手強化などでお手伝いをして以来、社として社会貢献の一環として、“三笠宮杯への支援”、“ジュニア・ユース選手への支援”などさせていただいており、国際的に活躍する若い選手が育つことも大変楽しみです。来年のブエノスアイレスでのユースオリンピックにブレイクダンスが採用され、メダルの可能性が極めて高いと伺い、皆様のご努力でどんどん発展していることを嬉しく思います。ダンスは音楽とともに子供から高齢者まで楽しめる世界共通の素晴らしい文化であり、国際的なコミュニケーションとしても重要な役割を果たすものと思います。日本ダンススポーツ連盟がこれからも積極的に活動されることによって、日本におけるダンス文化が益々発展することを祈念してご挨拶とさせていただきます」とのご祝辞を賜りました。

引続き公益財団法人日本オリンピック委員会（JOC）中森康弘広報企画部長から「創立40周年、今年はさらにJDSFがJOCに正式に加盟されて丁度10周年であり、かくも盛大に式典が開催されることは、JOCにとっても大変喜ばしいことです。2010年アジア国際総合競技大会に、ダンススポーツが戦略的に且つ着実に入ってこられたことは大変なご尽力の賜物です。JOCは、現在、文化プログラム（五輪憲章で実施が義務づけられている）にも取り組んでいます。ダンススポーツもJOCの加盟団体として、全国各地で文化プログラムを行ない、ダンススポーツの普及・競技力の強化にも取り組んでいただきたい。ユースオリンピック実現は、将来のオリンピックに大きな道筋が切り開かれたことだと私も期待しております。是非、来年東京で開催されるユースオリンピック最終予選となるWDSF世界選手権を世界に誇るべき大会としIOCへ大きくアピールをして欲しい。JDSFの益々の発展をお祈りしております」とご祝辞を賜りました。

表彰式・感謝状の授与

JDSF 創立40周年にあたり、本法人の発展にさまざまな功績を残された方々の表彰式が行なわれました。特別功労表彰は、JDSFの役員等を務め、著しい功績を残した6名の方への特別功労表彰の授与です。齊藤会長より表彰状が読み上げられ、仲野巽JDSF元専務理事に授与、以下各受賞者に順次授与されました。続いて、本法人の加盟団体会長等を務め著しい功績を残した10名の方への功労表彰の授与です。次に、国内外の競技会において長年にわたり優秀な成績を収め本法人の名誉並びに発展に著しく貢献されたカップルもしくは個人への選手功労表彰の授与です。そして職員として長年勤務し本法人の運営に著しい貢献をされ退職された山澤重雄氏に対し永年勤続表彰の授与が行なわれました。

最後に秋元司衆議院議員（ダンス文化推進議員連盟事務局長、JDSF顧問）に、風営法の規制条項撤廃、もって我が国のダンス文化の発展に大きく寄与されたことにより感謝状が授与されました。

秋元議員は「感謝状を賜ったこと大変嬉しく光栄に思います。風営法規制撤廃が記念すべき40周年に間に合いました。小坂憲次ダンス文化推進議員連盟会長が昨年逝

去され、この場におられないので誠に悔しい思いです。小坂先生の思いをしっかりと受け継ぎ、ダンス文化を発展させたい。ダンスは素晴らしい自己表現を行ない、多くの人に感動と夢を与えてきた。それが文化としてスポーツとしてここまで成長してきた要因。40年間ダンス文化振興にご尽力いただいた方々に感謝と敬意を表します。これからは全ての規制が撤廃されたことにより、いつでもどこでもダンスを楽しめるようになった。これはオリンピックにおいても国体に向けても大きな前進。齊藤会長を先頭に大きく羽ばたき、ダンスを通じて喜びを分かち合える文化として、さらに一層成長されることをご祈念申し上げます」と、ご挨拶をいただきました。

ディナータイム

いよいよ祝宴。公益財団法人東京都スポーツ文化事業団並木一夫理事長の「40周年、誠におめでとうございます」のご祝辞に続き“乾杯“のご発声で食事と歓談に移りました。会場の左右に設置された大スクリーンには、『創立40周の歴史とあゆみ』の特別映像が映し出されました。この特別映像は、三笠宮崇仁親王殿下より会員の皆様にお見せするようにと生前に、お預かりした貴重な映像も映されました。

そして会食タイムの後半には、故山口繁雄JADA会長と共にJADA常務理事としてにダンススポーツの発展に寄与された小林彌壽枝さんのビデオオメッセージも紹介されました。

ショータイム

本日の祝宴も最高潮に達し、いよいよショータイムの始まりです。スタートは『JDSF強化選手によるスタンダードのメドレー』。普段の競技会では見ることができないJDSF GD（ゼネラルディビジョン）とPD（プレミアディビジョン）のトップ選手が一堂に会し、競技会さながらの熱気溢れるダンスが披露されました。ラテンの部も、勿論、白熱した演技が披露されました。

小嶋みなと･盛田めぐみ組

大西大晶・大西咲菜組

渡辺安登・石垣真衣組（ブルボンDST）

久保田弓椰・徳野夏海組

山本武志・木嶋友美組

山嵜圭太・石本美奈子組

全日本学生競技ダンス連盟からは、独協大学ダンス部の皆さんがお祝いに駆けつけてくれました。若さ溢れる『獨協大学フォーメーションチーム』の披露です。

ここで雰囲気は一変。石川勝之部長とブレイクダンス部の真鍋謹良さん、河合来夢さんの登場です。ブレイクダンスは1970年代にニューヨークの貧困街の若者達によって発展したヒップホップで、ギャングが抗争をまとめるために銃撃戦の代わりにブレイクダンスのバトルを用い、発展に繋がったとブレイキンの文化と歴史を語り、「2018年にブエノスアイレスで開催されるユースオリンピックでは“ブレイクダンス”がダンススポーツの正式

石川勝之ブレイクダンス部長

真鍋謹良さん

河合来夢さん

種目に決定！　日本のメダル獲得に大きな期待が寄せられています！　皆様、応援をよろしく！」と、元気よくスピーチアピールです。身体を一杯に使って回ったり跳ねたり頭でも高速で回る素晴らしいアクロバティックな動きを音楽に合わせての体現でした。また、ブレイクダンスのメンバーにJDSF強化選手、さらに山田淳専務理事が加わり、ブレイキン！

最後の最後は山田専務理事が見事に決めました。（写真中央）

続いてJDSF-PD関東甲信越ブロック所属選手による『PD選手会フォーメーションチーム』の皆さんです。7組14名の皆さんにより、楽しいダンスショウを披露されました。

また、JDSFの組織に新設されたエンターテイメントダンス部によるダンスパフォーマンスです。エンターテイメントダンス部35名による楽しいダンスで、この日の彩りを飾ってくれました。

『JDSF強化選手によるラテンのメドレー』

大西大晶・大西咲菜組

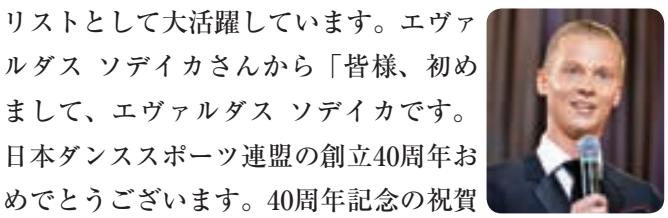
渡辺安登・石垣真衣組（ブルボンDST）

久保田弓椰・徳野夏海組

山本武志・木嶋友美組

スペシャル・デモンストレーション

ショータイムの最後を飾るのは、世界に誇る『スペシャル・デモンストレーション』です。海外ゲストは、リトアニアから本日のためにお呼びしたエヴァルダス ソデイカ＆イエヴァ ズカウシュカイテ組です。ソデイカ組は、リトアニアの代表選手として、ワールドダンススポーツ選手権、ヨーロッパのダンススポーツ選手権等で活躍するトップ選手です。2008年にカップルを結成し、2012年以降は世界各地で開催される様々な競技会のファイナリストとして大活躍しています。エヴァルダス ソデイカさんから「皆様、初めまして、エヴァルダス ソデイカです。日本ダンススポーツ連盟の創立40周年おめでとうございます。40周年記念の祝賀会に私達をお招きただいたことを大変光栄なことと感謝しています。今回、イエヴァと私にとっては初来日となりますが、確かなことは日本の皆様にお会いでき、とても貴重で忘れられない経験になるということです。私たちのダンスが皆様のご期待にかなう内容となるように一生懸命に踊りますのでご声援を宜しくお願いします」と、メッセージ。“普段は自然が大好きでアウトドアライフを楽しむ若者“との紹介もありました。のびやかな表現の中にも瑞々しい力強さ溢れるダンスが続き、満場溢れんばかりの拍手に快くアンコールにも応えてくれました。



フィナーレに入り、本日出演の全員がフロアーに登場です。そして、JDSF山田淳専務理事より御礼の言葉と共に、「新たな未来に挑戦したい！」と閉会の挨拶があり、創立40周年記念式典・祝賀会は盛会裏に幕を閉じました。（JDSF広報部顧問　神宮周二）

出演者一同

役員と実行委員会メンバー

JDSF創立40周年で表彰された方々

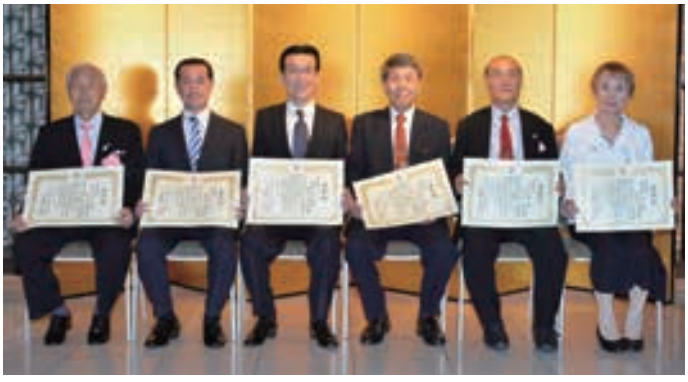
【特別功労表彰６名】

仲野　巽（元JDSF専務理事、現PD副本部長・特任顧問・選手強化部顧問）／**鵜飼慶司**（元JDSF会長・常務理事・国際本部長、現WDSF理事・ADSF会長・特任顧問・国際本部顧問）／**溝口　稔**（元JDSF理事・競技本部長、現ジュニア育成部長・特任顧問・選手強化部顧問）／**金城庸夫**（元JDSF理事・普及本部長、現ダンススポーツ医科学研究部部長・特任顧問・普及本部顧問）／**今泉清隆**（元JDSF理事・マーケティング本部長、現PR部長・特任顧問・マーケティング本部顧問）／**内山雅允**（元JADA副会長・東京都連盟会長、現JDSF事務局長）

【選手功労表彰12名】

石原正幸／鈴木斐美／久保田弓棚／石原蘭羅／小嶋みなと／盛田めぐみ／GUZYR OLEKSII／太田吏圭子／山本武志／木嶋友美／藤井創太／吉川あみ

【永年勤続表彰１名】 山澤重雄



【功労表彰10名】

田中秀朗（元茨城県DS連盟会長）／**伊藤一男**（元北海道DS連盟会長）
栗田良実（元岩手県DS連盟会長）／**岡田明義**（元長野県DS連盟会長）
本間　朗（元新潟県DS連盟会長）／**中村　実**（元三重県DS連盟会長）
吉田節夫（元福井県DS連盟会長）／**吉成佐枝**（元徳島県DS連盟事務局長）
比嘉憲和（元沖縄県DS連盟会長）／**比嘉和雄**（元沖縄県DS連盟会長）

公益社団法人日本ダンススポーツ連盟（JDSF）創立40周年記念講演＆平成29年度定時社員総会

創立40周年記念講演

スポーツの力

講演者　市原則之理事

定例社員総会に先立ち、「スポーツの力」と題して市原則之理事の記念特別講演が開催されました。市原理事は、ハンドボールの日本のトップ選手として活躍、また監督としても四大タイトル（実業団選手権・国民体育大会（国体）・全日本総合・日本リーグ）で優勝。JOC（日本オリンピック委員会）の専務理事、副会長としても手腕を振るわれ、現在は一般社団法人日本トップリーグ連携機構専務理事を務めています。2009年６月、JDSFの理事にご就任され、スポーツ界のリーダーとしてオリンピック・国体実現に向けて数々のご指導を頂いています。お話は、JOCでは1996年アトランタから、2000年シドニー、2004年アテネ、2008年北京の各オリンピックに連続して本部役員を務め、JOC常務理事兼選手強化副本部長・JOCゴールドプラン委員長も務められ、2020東京オリンピック・パラリンピック招致委員会副理事長などオリンピックの豊富なご経験から、東京オリンピックにまつわるエピソードやオリンピックの理念などにも触れられ、「オリンピックで世界の友好と平和をつくる」、そしてスポーツの３つの「F」、即ちフェアプレイ、ファイテイングスピリッツ、その後のフレンドシップの重要性など、裏話も含めて貴重なお話しをされました。

平成29年度定時社員総会

40周年記念講演に続き京王プラザホテルの会議室において開催されました。総会に先立ち、齊藤斗志二会長は「この数年、ダンススポーツの環境は激変の時代だった。公益社団法人化、戦後の大改革としての風営法の改正等々。また、PD部門の新たな設立、アマもプロも一緒の団体となり順調に推移している。そして、先々週シンガポールで開催されたWDSFの総会において田邊重光副会長が多年にわたる功績で表彰を受け、さらにWDSFのPD名誉理事に就任されたことをお慶び申し上げ報告する。また、来年の2018ユースオリンピックにおいてダンススポーツが正式競技となり、ブレイクダンスが正式種目として実施されることが決定、そして来年、最終予選となるブレイクダンス世界選手権が我が国において開催されることになった」と挨拶されました。

岸尾総務部長から正会員101名中74名が出席、総会が成立したことが報告され、議長に長谷川守夫福島県連盟正会員を選出され議案審議に入りました。

左から長谷川守夫議長、齊藤斗志二会長、田邊重光副会長

第１号議案　　平成28年度事業報告及び決算の件

山田淳専務理事より事業報告、内山雅允事務局長から決算の説明、鈴木一夫監事から監査報告があり賛成多数で可決されました。

第２号議案　　定款の一部変更の件

中道俊之理事から、PD会員は、定款上の特別会員として定義され、正会員選出権を有していないため、選挙権を付与する、との趣旨説明があり、定款の一部変更が、賛成多数で可決されました。

第３号議案　　理事・監事改選の件

現行の任期は平成29年6月25日の定時総会までとなっているので、その後、２年間を任期とする理事・監事を改選するに当たり、候補者一名ずつ採決が行われ賛成多数で全員が可決されました。新たに玉置朝啓氏が新理事として加わり、暫し休憩の間に臨時理事会が開催され役職が決定されました。

報告事項

- 山田専務理事より、「平成29年２月26日理事会で決定した平成29年度事業計画の一部修正とそれに伴う補正予算が、平成29年５月28日の理事会で承認された。同じく理事会で名誉役員が選任された」との報告がありました。また、下記のJOC関連の大会の日本代表選手が報告されました（後記＊）。
- 会費に関する規程の変更として、規定に定められている、選手会費、指導員会費、審判員会費は、それぞれ登録料とするとの報告がありました。
- その他JDSF創立40周年記念事業などの報告がなされました。

最後に山田専務理事から、内山事務局長の退任と後任が決まるまでの間の兼務の報告があり、内山事務局長から長年の支援に対する感謝の辞がありました。以上で滞りなく、総会は終了しました。

内山雅允事務局長

鈴木一夫監事

（＊）日本代表選手

第10回ワールドゲームズ
2017年7月20日～30日／ポーランド共和国・ヴロツワフで開催
・スタンダード：山本武志・木嶋友美組
・ラテン：藤井創太・吉川あみ組

第５回アジアインドア・マーシャルアーツゲームズ
2017年9月17日～27日／トルクメニスタン・アシガバットで開催
・スタンダード（2組）：小嶋みなと・盛田めぐみ組／山本武志・木嶋友美組
・ラテン（２組）：藤井創太・吉川あみ組／久保田弓椰・徳野夏美組

全国代表者・正会員会議

山田淳専務理事

6月24日（土）13時から、東京都江東区有明のファッションタウン（TFT）ビル研修室において開催されました。

岸尾政弘総務部長の司会で始まりました。山田淳専務理事からJDSFの中長期方針と進捗状況について、をテーマに説明がありました。昭和52年のJADA創立以来40年の歴史、“めざせオリンピック！”という設立以来の不動の方針やオリンピックの効果など解説があり、ダンス人口の高齢化と減少に伴い構造改革は必須と説明されました。続いて中道俊之理事から持続可能な組織運営とするため、構造改革委員会おける検討事項について報告がありました。山口剛理事からはDSCJ全日本統一級をJDSF公認の統一級とする等DSCJ改革について説明がありました。ダンス人口の高齢化と激減・選手数減少の中で「各都道府県連盟には選手を送り出す力（普及の力と財力）が落ち込んでいる状況にあり、昨年JDSF 総会時の全国都道府県代表者会議でもDSCJ競技会と県連競技会とのバッティングによる打撃や競技会品質の改善などが求められており、今後NJDC、JPBDAとの競技会の回数など調整が必要でありこれについてはソフトランディングさせたい」との説明があり、競技会事業改革に関する質疑に入りました。各県各ブロックの現状等発言が相次いだ結果、各ブロックや各県連での調整が必要であるが、必要に応じて本部と各団体との調整も行なっていくことになりました。松山光男理事から認定ダンス教室推進についてメリットなど説明、今日現在、全国で82教室に達し今後も増加していく旨の報告がありました。

休憩後は、魅力ある連盟活動に向けて居樹保朗理事から、会長を務める地元東京都稲城市連盟の取り組みについて事例紹介があり、秋田幸子理事からは“ボールルームへようこそ”のアニメTV放映開始に合わせてタイアップについて解説、さらに他ジャンルダンス連携及びプロモーションについて説明がありました。続いて中道理事から、国体の正式種目に向けて47都道府県全部が体協に加盟することが条件となっている。今年4月に香川県、宮崎県の加盟が決まり、現在体協未加盟の残り5県については、広島県加盟申請（審査中）、長崎県と高知県は加盟申請準備中、鳥取県と大分県については再申請を検討しているという状況の報告がありました。金子和裕常務理事から、認定サークルのあり方と移籍自由化について説明があり、サークル移籍の自由化、認定や更新手続きの簡略化など公益社団法人日本ダンススポーツ連盟認定サークル規程の改正案が示されました。各都道府県連盟に意見照会を行った上で、11月の愛媛での全国代表者会議で改正される見通しです。

竹島弘幸神奈川県会長（右端）と神奈川県の役員

溝口稔特任顧問（中央）、鈴木康介中部ブロック委員長他中部ブロックの役員

山岡光廣秋田県副会長　越智米明愛媛県会長

そして秋田県連盟の山岡光廣副会長から9月の秋田ねんりんピック、越智米明愛媛県連盟会長から11月の都道府県対抗戦、溝口稔特任顧問から7月末のオールジャパンジュニア戦について紹介があり総会は終了しました。

懇親会

全国代表者会議の後の懇親会でも意見交換は続きました。乾杯は長野県の新しい連盟会長、百瀬芳正さん。途中からソデイカ組も参加し、楽しい歓談が続きました。

内山事務局長を囲んで

百瀬芳正長野県会長の乾杯

藍沢寛一九州ブロック委員長（左から3人目）

ソデイカ組とワインで乾杯！

平成29年度定例理事会

2017年5月28日（日）、東京有明のJDSF本部事務所のDTCにて開催されました。

6月25日の総会で審議される平成28年度事業報告及び決算などを中心に審議されました。さらに、本年1月の育児・介護休業法及び男女雇用機会均等法の施行等に伴い就業規則等の改定についても了承されました。また、JDSF創立40周年記念式式典の被表彰者についても報告されました。

2018年ユースオリンピック ブレイクダンス（ブレイキン） 正式種目採用記者発表会

2017年5月11日㈭／岸記念体育館　1階会議室（公益財団法人日本体育協会・公益財団法人日本オリンピック委員会）

右から　齊藤斗志二JDSF会長、山田淳専務理事、石川勝之ブレイクダンス部長

出席したのはJDSF齊藤斗志二会長、山田淳専務理事、石川勝之ブレイクダンス部長をはじめ、ブレイクダンス部各委員、そしてブレイキン競技の国内大会上位ユースの選手たちです。

齊藤会長は、本日の記者発表の趣旨について「昨年12月、国際オリンピック委員会（IOC）の理事会で2018年ブエノスアイレス（アルゼンチン）で開催されるユースオリンピックに、ダンススポーツ競技のブレイクダンスを正式種目に採用する、という決定通知がWDSF（世界ダンススポーツ連盟）に届いた。IOCの判断に驚きもし、大きな喜びでもあった。ダンススポーツは2020年東京オリンピック追加種目に立候補も残念ながら採用されなかったが、**2018年ユースオリンピック種目の採用、そして来年5月に東京で最終予選となるIOC承認WDSF世界ユースブレクダンス（ブレイキン）選手権をJDSFが開催する、**というグッドニュースを皆様にお伝えすることを嬉しく思う。若い息吹、若い力を私は感じている。ブレイクダンスを通じて、“日本の若者を元気に、そして世界の若者とも仲良く”という大きな目標を達成するために是非この大会を成功させたい。若者のパワーがサプライズにつながるように、金メダル候補が我が国には多数いるので、是非ご支援賜りたい。今回、オリンピックのプログラムにブレイクダンスが加わったわけで、ペアのダンススポーツもオリンピックプログラムに加わる足がかりになればさらに喜ばしい」と挨拶しました。

続いて石川部長よりブレイクダンスについて詳しい説明がありました。「ブレイクダンスは音楽に合わせ体のあらゆる箇所を使って跳ねたり廻ったりアクロバティックな動きをする。ヒップホップ文化を体現するブレイクダンス（ブレイキン）は世界中で愛されている。我が国はブレイキン大国であり、ユースオリンピックでの活躍が期待される。ブレイキンがスポーツとして認められたことは誇りに思う。スポーツ的な側面からブレイキンの発展を目指したい。特にユースの若い世代に夢を与えたい」と力強く話しました。

記者発表会出席者一同

山田専務理事からはユースオリンピックに向けてJDSFの役割や取り組みの姿勢、競技システムなどの説明がありました。「JDSFから責任を持って、選手を送り出す。ブレイキンの大会は世界的にいくつかのメジャーなオーガナイザーにより行なわれているが統一されたルールは存在しない。ユースオリンピックでは客観的で適切な審判システムで行なわれるべきである」としてJDSFとしてWDSFに1月に提案を行なった選手選考方法等が紹介されました。

最後にブレイキンの王者、TAISUKE（野中泰輔）とISSEI（堀壱成）がブレイクダンスを披露しました。

★「ブレイクダンスキッズ日本一決定戦ドリームカップ2016」中学生の部ベスト4に入賞した4人が高校生となり、ユースオリンピック有力候補として記者発表会に臨みました。（写真左から）

- **半井重幸さん「Shigekix」**（15歳）大阪学芸高校1年生
  「ブレイキンは芸術とスポーツの融合。音楽を聞きながら、その場で自分の動きと技を繰り出す。姉から誘われ7歳から始めました。基礎を学んで自分の感情を吹き込みムーブを創りだす。ユース五輪では、金メダルを取りたい。」
- **古寺愛翔さん「Manato」**（15歳）埼玉県立富士見高校1年生
- **佐藤匠さん「Sho」**（15歳）長野県立野沢南高校1年生
- **河合来夢さん「Ram」**（16歳）神奈川県立白百合高校1年生

★アンチドーピング研修会

ブレイキングダンスはスポーツの分野でも認められました。この日、午前中はアンチドーピングの研修会が開催され関係者一同聴講しました。講師は古瀬精一JDSFアンチドーピング委員長です。（写真左端）

THE WORLD GAMES 2017ヴロツワフ大会記者発表&日本代表壮行会

大会のポスター

主催：特定非営利活動法人日本ワールドゲームズ協会（JWGA）
後援：スポーツ庁、公益財団法人日本オリンピック委員会、公益財団法人日本体育協会

師岡文男日本ワールドゲームズ協会理事

鈴木大地スポーツ庁長官

ヤツェク・イズィドルチク駐日ポーランド大使

泉正文日体協副会長の乾杯

7月5日（水）、東京都渋谷区の岸記念体育会館 日本スポーツマンクラブにて『第10回ワールドゲームズ大会』記者発表・日本代表選手壮行会が開催されました。

今大会は、7月20日から30日まで、ポーランド共和国・ヴロツワフ市で開催されます。国際ワールドゲームズ協会（IWGA）が主催し、国際オリンピック委員会（IOC）が後援する“第2のオリンピック”ともいわれる国際総合競技大会で4年に一度開催されます。

ダンススポーツ競技を含む公式27競技、公開4競技に111の国・地域から選手4,156名（公式競技3,517名、公開競技639名）の世界有数のトップアスリートが集結します。わが国からは18競技に98名の日本代表選手が世界最高峰の舞台に挑みます。

●ダンススポーツ日本代表
スタンダード：山本武志（31歳）・木嶋友美（31歳）組
ラテン：藤井創太（18歳）・吉川あみ（18歳）組

記者発表は15時から始まりました。冒頭、赤木恭平日本ワールドゲームズ協会理事は、IOCの承認を受けたIF（国際競技連盟 InternationalFederations）がオリンピックに採用されていない競技が覇を競う第2のオリンピックの大会であり、1981年第1回大会がサンタ・クララ（アメリカ）で開かれた」と挨拶。師岡文男日本ワールドゲームズ協会理事は大会概要に触れ「オリンピックとの関係は濃密になっている。ワールドゲームズからオリンピックに採用される競技もあれば、オリンピックからワールドゲームズに戻ることもある世界規模の大会です」と解説されました。

壮行会は16時から始まり、鈴木大地スポーツ庁長官は「日頃鍛えた成果を発揮し各選手にとって良い大会に、そして日本代表として注目されていることを意識して行動して欲しい。頑張ってください」と挨拶。ヤツェク・イズィドルチク駐日ポーランド大使は「約100名の選手が我が国を訪問されることは大変光栄、今回の訪問が幸運であるように！」と挨拶されました。続いて竹田恆和JOC会長は「日本のスポーツの振興に力をつくされている各団体に感謝。ワールドゲームズ協会とはパートナーシップを結んでおり深い関係にある。近い将来オリンピック種目になるように各団体益々のご発展を！」と挨拶されました。泉正文日体協副会長の乾杯に続き日本代表選手団の紹介がありました。

ダンススポーツは4番目、この日出席の山本武志、木嶋友美、吉川あみ各選手が登壇し、「メダル目指して頑張ります」と挨拶、パフォーマンスを披露し、選手、関係者、メディア等200名を越える参加者の注目を浴びました。

選手紹介でパフォーマンスを披露した山本武志さんと木嶋友美さん

右から岸尾政弘総務部長、木嶋友美さん、吉川あみさん、竹田恆和JOC会長、山本武志さん、神宮周二広報部顧問

藤井創太選手は学校の試験と重なりこの日は欠席しましたが、日本代表として藤井創太・吉川あみ組の抱負を寄せてくれました。

「僕たちは初めてワールドゲームズに出場します。ダンススポーツ日本代表として出場できることを、とても光栄に思います。初めてアダルトの世界のトップ選手と戦えるのが楽しみで練習にも気合が入ります。自分達の力を思う存分発揮して海外の選手の気迫や雰囲気に負けないよう頑張りたいと思います。日本人の良さを見せていき、海外の選手にも引けを取らない強い自信をもって大会に臨みたいです。またワールドゲームズでは普段交流する機会のない他の競技の選手とも交流ができると思うので楽しみです。ワールドゲームズで沢山のことを学んで帰ってきたいです。」

注釈：WDSF（世界ダンススポーツ連盟ルーカス・ヒンダー会長はIWGA（国際ワールドゲームズ協会の財務担当理事、小野清子JDSF名誉会長はJWGA（日本ワールドゲームズ協会）の会長を務めています。

WDSF総会の報告

国際本部長　鵜崎清貴
（WDSF 財務エグザミナー・ADSF 財務担当理事）

2017年6月12日から6月13日、シンガポールのスイスホテルで開催された世界ダンススポーツ（World DanceSport Federation：WDSF）総会が開催されましたので報告致します。

本年度は、WDSF創立60周年記念総会であるとともに、ジェネラル部門（GD）とプレミア部門（PD）における4年任期の役員選挙が行われました。

まず、6月12日にWDSF PD総会とフォーラムが開催されました。そしてPD役員選挙が行われ、選挙の結果、Verena Sulek氏（スロベニア）が会長に選ばれ、Sergey Belyaev氏（ロシア）、Marek Chojnacki氏（ポーランド）、Davide Cacciari氏（イタリア）そしてAlexander Melnikov氏（ロシア）がPD新役員に選出されました。

PD会長と新役員

PD会長のVerena Sulek氏と田邊重光JDSF副会長

このPD総会の中で、PD会長のVerena Sulek氏から田邊重光JDSF副会長に、長年のダンススポーツの普及発展及び日本のPD設立へのご尽力に対し、PDマネジメントコミッティの名誉プレシディアムへの就任および表彰が行われました。

PD総会終了後、フラワーガーデンでWDSF創立60周年パーティと総会のウェルカムパーティが開催されました。そこでもまた、田邊JDSF副会長の長年のダンススポーツの普及発展及び日本におけるPD 設立ならびに今年3月に日本で開催PDスーパーグランプリの成功へのご尽力に対し、WDSFのLukas Hinder会長より会長賞が授与されました。またWDSF創立60周年記念として、WDSF会員のJDSFも表彰され山田淳専務理事が代表して記念品が授与されました。

Lukas Hinder会長と山田淳専務理事

また、長年WDSFのプレシディアムメンバーとして活躍してこられた鵜飼慶司氏に対しても表彰が行われました。今年でプレシディアムを退任されますが、引き続きアジアダンススポーツ連盟（ADSF）の会長として、アジアおよび日本のダンス界でご活躍をお願いします。

Lukas Hinder会長と田邊重光JDSF副会長

6月13日にWDSF総会が開催されました。多くの議案が議論されましたが、ここではIDカードと役員改選について記したいと思います。WDSFの大会に出場する選手は、WDSFに登録しIDカードを保持しなければなりません。これまで4年でCHF10（現在1スイスフラン117円前後）でしたが、あまりに安いため今回改正されました。IDカード登録費の変更は、アダルト・シニアはCHF20/1人1年で、ジュニア・ジュブナイルはその半額でCHF10/1人1年となりました。

Lukas Hinder会長と鵜飼慶司JDSF特任顧問

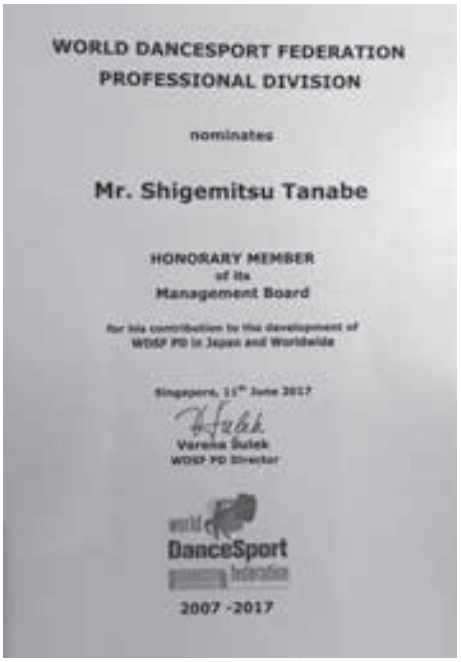
今年からプレシディアムの役員構成が変更され、各部門に副会長とPD会長そして3名の理事を選任し、アスリート委員会委員長と各アソシエートメンバーの会長から構成されるようになりました。

会長にはLukas Hinder氏（スイス）、First Vice-President for Sportには、Shawn Tay氏（シンガポー

ル)、Vice-President for FinanceにTony Tilenni氏（オーストラリア）、Vice-President for Legal AffairsはJim Fraser氏（カナダ）、Vice President for DevelopmentはAnthony Cyzyk氏（ポーランド）、Vice President for CommunicationsはLeena Liusvaaran氏（フィンランド）、Vice President for MarketingはVasile Gliga氏（ルーマニア）、General SecretaryはNenad Jeftic氏（セルビア）、そしてPD会長Verena Sulek氏（スロベニア）が選任されました。また、3名の理事にもGlenn Weiss氏（アメリカ）、Lena Arvidsson氏（スウェーデン）そしてPeter Maxwell氏（イギリス）が選ばれました。そしてWDSFのアソシエートメンバーである国際チアリーディング連盟（IFC）の中村節夫会長もプレシディアムメンバーに選出されました。

今年の総会は、プレシディアムの役員構成に関する規約の変更と役員選挙があったため、12時間に及ぶ長いものとなり、総会参加者は皆疲れ切り、閉会となりました。

WDSFの新役員



PD会長のVerena Sulek氏から田邊重光JDSF副会長に贈られた名誉プレシディアムへの就任状

2017全日本選手権10ダンス・PDグランプリカップスタンダード（2017年世界10ダンス代表選手選考会・世界シニアⅡ10ダンス代表選手選考会・WDSF-PDスタンダード世界選手権代表選考会）

2017年６月４日（日）／津島市文化会館

本大会は2017年WDSF世界10ダンス選手権並びに世界シニアⅡ10ダンス選手権の代表選考会、さらには新たにプレミアムディビジョン（PD）によるPDグランプリカップ（スタンダード）が加わりました。

10ダンス選手権はスタンダード５種目、ラテン５種目の10種目総合でたった一組のチャンピオンを決める、非常に体力的にも精神的にも極めてハードな競技です。昨年の大会は、久保田弓椰・セルミヤギナ ヴィクトリア（ロシア）組と八谷和樹（19歳）・皆川円（21歳）組、そして大西大晶（18歳）・大西咲菜（15歳）組が大接戦を繰り広げ、久保田組が得意のラテン種目で逆転優勝を決めるという稀に見る熾烈な争いを演じられました。今年は、久保田弓椰（26歳）選手が徳野夏海さん（16歳）と組み、PD競技に出場となりました。これにより10ダンス選手権は、スケールの大きな迫力のある踊りの前々回の覇者の八谷組と、シルエットが美しくすべての種目でコンスタントに実力を発揮する前々回準優勝、前回第３位の大西組の戦いが注目されました。

写真左から実行委員長の鈴木康介中部ブロック運営委員長、副実行委員長の佐合孝志愛知県DS連盟会長、三尾英幸春日井市DS連盟会長、毎原保信チェアパーソン

全16組が出場しましたが、予想通り決勝は熾烈な優勝争いとなりましたが、結果は八谷組が、ラテン５種目とスタンダードのワルツ、フォックストロットの７種目で１位を獲得し優勝に輝きました。準優勝はスタンダード３種目（T・Vw・Q）で１位を獲得した大西組、第３位は小柄ながら柔軟性と表現力豊かな踊りでイタリア出身、昨年の三笠宮杯から出場し海外でも活躍しているMario De Rose（22歳）・三橋櫻（19歳）組となりました。第４位は金井大輝（18歳）・甘利このみ（18歳）組、第５位は千葉海都（18歳）・千葉琳花（４月に20歳になったばかり）組（岩手県）、そして北海道のジュニア強化選手の太田歩生（14歳）・太田なごみ（13歳）組が初ファイナルで第６位となり、20代前後から10代前半まで、今年も若い選手の活躍が目立つ大会となりました。

全日本選手権10ダンス

優勝　八谷和樹・皆川　円 組（千葉県）

「とにかく優勝でき嬉しいです。八谷選手は今年東京にある大学のスポーツ科学部に進学しました。ダンスだけでなく、筋トレなどのトレーニングや栄養学など高度な専門知識のある先生方に恵まれ教えていただける環境なのでありがたいです！」

大西大晶・大西咲菜 組（富山県）

Mario De Rose・三橋　櫻 組（千葉県）

金井大輝・甘利このみ 組（群馬県）

千葉海都・千葉琳花 組（岩手県）

太田歩生・太田なごみ 組（北海道）

PDグランプリカップ

優勝　久保田弓椰・徳野夏海 組（北海道）

「優勝できて嬉しいです。大阪グランプリのWDSF－PDスタンダード世界選手権代表選考競技会で負けたオレクシー グザー・太田吏圭子組の出場はなく残念でしたが、チャレンジ精神で頑張りました。今はお互いにダンスを始めてこれまでにない最高の充実感を感じています！」

表彰式

秋谷孝宏・
田原美穂 組（東京都）

北牧雅文・
田村奈緒子 組（大阪府）

DSCJ A級

小宮太郎・川瀬伊津子 組（愛知県）
（シニアⅡ選手権St優勝）

稲垣　浩・
伊藤千恵美 組（北海道）

吉川和樹・
吉川百香 組（愛知県）

プレジュニア

St・La優勝　滝川貴之・滝川綾乃 組（愛知県）

滝川貴之・滝川綾乃組は中学２年と３年の姉弟カップルです。お姉さんの滝川舞さん（写真左）は18歳、綾乃さんと組んで、オールジャパンジュニアに出場予定です。StとLaでリーダー役とパートナー役をチェンジするつもりです。頑張ります！

シニアⅡ選手権

村上和穂・
金子真弓 組（愛知県）

小野克臣さん

小野克臣さんは、競技のアナログ進行掲示係。縦横同じ間隔で几帳面に、寸分の狂いなく同じ場所に競技区分名等を手で貼り付けます。現在70歳、C級選手でした。奥様の小野妙子さんは看護師さん、今日も医務係です。結婚を機にダンスは止めましたが毎原さんと出会い再開、競技会のお手伝いに励みます！

千葉慎太郎・吉岡由美恵 組（東京都）
（同St準優勝）

山本　明・山本晴美 組（愛知県）

小川　明・
杉浦節子 組（愛知県）

第27回 東京多摩南ブロック大会
第56回稲城市ダンススポーツ競技大会

2017年５月３日(水・祝)／稲城市総合体育館

稲城市は東京都心から西南に約25km(電車で約30分)、多摩川右岸に位置し、現在は住宅地化が進んでいますが農家も多く、古くからナシやブドウの産地であり、森林も比較的多く残っています。稲城市DSの会長はJDSF理事・東京都DS連盟居樹保朗会長が務めており、全国的に老齢化の波もあり会員数の減少傾向にあっても、この10年、会員数がほとんど減らないそうです。それは会員がポスティングなどで新規募集をし、サークルに初心者が来るとみんなで面倒を見て、飲み会、旅行、花見などの合間にダンスを楽しむサークルや、親子で楽しめるほのぼのしたサークルなど、楽しいサークル、楽しい連盟作りを目指し、会員数を増やす努力をしています。そんな雰囲気が伝わる大会となりました。

伊藤達也衆議院議員

競技は午前10時、D級戦スタンダードから始まり、延出場者数は320組を数え熱戦が繰り広げられました。午後４時半過ぎに競技は終了し、そのあとは会員みんなで会場の後片づけにかかり、約１時間で撤収作業は終了しました。その後は記念写真です。皆様、お疲れ様でした。

居樹保朗東京都DS連盟会長とご来賓の石川良一東京都議会議員

DSCJ C級戦 スタンダード

表彰式

一文字孝一・
三保りえ 組(東京都DSC)
(同ラテン優勝)

岩野千秋・
久保融子 組(神奈川県)

末元　清・
前田明美 組(調布市)
(同スタンダード３位)

酒井雅幸・酒井悦子 組(埼玉県)

DSCJ C級戦 ラテン

表彰式

DSCJ D級戦 スタンダード

表彰式

藤野　茂・
藤野春子 組(世田谷区)

内藤俊彦・
内藤圭子 組(多摩市)

DSCJ D級戦 ラテン

長谷川淳・
長谷川礼子 組（あきる野市）

横山英夫・
横山泰子 組（羽村市）
（同スタンダード準優勝）

橋本一行・
橋本成子 組（稲城市）

シニアIII A級戦 スタンダード

森田直樹・
森田敏枝 組（小平市）
（同ラテン優勝）

唐鎌慶雄・
唐鎌明美 組（東京都DSC）

福原保男・
福原逸子 組（世田谷区）

シニアIII A級戦 ラテン

山口昌宏・有田良子 組（東京都DSC）

飯田　剛・飯田弘子 組（神奈川県）

シニアIII B級戦 スタンダード

表彰式

難波芳幸・
難波みづほ 組（東京都DSC）

シニアIII B級戦 ラテン

表彰式

佐々木遵・
佐々木友子 組（調布市）

DSCJ 1級戦 スタンダード

表彰式

大伴隆夫・
熊谷陽子 組（小平市）

DSCJ 1級戦 ラテン

表彰式

島村静男・
石川千鶴枝 組（八王子市）

第10回 埼玉県ジュニアダンススポーツ大会
（第30回県民総合体育大会）

2017年5月5日（金・祝）／
川越運動公園総合体育館メインアリーナ

オレクシー組と出場した子どもたち

都道府県レベルでは珍しい高校生以下だけの子どもたちが楽しく競う「埼玉県ジュニアダンススポーツ大会」が第10回目の大会を迎えました。幼稚園児から高校３年生までの162名が出場する、賑やかなこどもの日に相応しいダンススポーツ大会となりました。

埼玉県は「スポーツを通した元気な埼玉づくり」を基本理念の一つに掲げ、「スポーツを通して、次代を担う青少年の健全育成を目指す」とスポーツ推進事業の基本方針に盛り込まれています。

本大会が毎年開催できるのも、高橋久雄・高橋和代会長ご夫妻はじめ埼玉県DS連盟の皆様のご尽力の賜物です。そして蔭に日に支援されてきた小林英夫先生はじめ多くのゲストの皆様も出席されました。

高橋会長は「これもひとえに小林英夫先生のご指導の賜物です。2008年ロシアのハバロフスクから4組のジュニア・キッズ選手を迎え、第3回オールジャパン・ジュニア　ダンススポーツカップが華々しく開催された時に、埼玉県では「For the future, For the children」をスローガンとしたロシアジュニア選手との交流パーティー「キッズダンスフェスタ」を開催、ホームステイも行ないました。これをきっかけに埼玉県のジュニアダンススポーツ大会はスタート。節目の第10回大会を迎え感慨もひとしおです」と挨拶。小林英夫先生をはじめ多くのゲストの参加がありました。

高橋会長ご夫妻

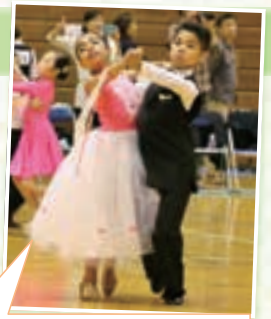
今大会の審判員は、2015年三笠宮杯全日本選手権優勝、2016年同PD部門優勝、2017年大阪グランプリPD優勝、2014年からWDSFアスリート委員会アジア代表を務めるオレクシー グザー・太田吏圭子組です。楽しいジュニア向けのレクチャーもありました。

小林英夫先生

オレクシー グザー・太田吏圭子組

プレジュニア
（中学生、小学生可、女子同士可）

スタンダード表彰式



優勝　小島獅桐・三吉るあ組
（HLY高崎Danceスタジオ）（高校生の部La優勝）

ラテン表彰式

優勝　ホワイトン謙心（10歳）・ホワイトン夏奈実（9歳）組（D.T.Sジュニア相模原）
プレジュニアStとプレジュブナイルSt・Laの３競技に優勝。今年２月コペンハーゲンオープンのジュブナイルで８種目総合第４位となり注目を浴び、ヨーロッパのドレスメーカーから衣装の提供を受けています。毎年、海外遠征１回、イタリアキャンプに２週間参加、世界チャンピオンのシモーネの指導も受けています。

プレジュブナイル
（小学生、未就学児可、女子同士可）

スタンダード表彰式

高校生の部（中学生以下可、女子同士可）

スタンダード表彰式

ラテン表彰式

優勝　吉田周平・馬谷真利亜組（ジュニアアスリートクラブ）（プレジュニアSt準優勝）

ラテン表彰式

優勝　ホワイトン謙心・ホワイトン夏奈実組
（D.T.Sジュニア相模原）

女子中学生の部（小学生以下可）

スタンダード表彰式

ラテン表彰式

優勝　牧野果礼・佐野媛菜組（ジュニアアスリートクラブ）（同St優勝／プレジュニアLa準優勝）

スタンダード表彰式

小学生の部

ラテン表彰式

JELチビッ子クラブ

平成29年度 富山県スポーツ・フェスタ

第26回 富山県民スポーツ・レクリエーション祭（ねんりんピック富山2018予選会）

第56回 富山県ダンススポーツ大会

中部ブロック選手権・シニアⅠ

2017年6月11日（日）／富山市婦中ふれあい館

本大会は富山県、富山県体育協会、富山県教育委員会、富山県生涯スポーツ協議会などの主催、富山県民スポーツ・レクリエーション祭実行委員会と共にNPO法人富山県ダンススポーツ連盟の主管で開催されました。富山県のスポーツ・フェスタは、「子どもから高齢者まで、スポーツ愛好者からトップアスリートまで幅広く参加できる大会」であり、各スポーツ競技団体で開催されています。また、富山県民スポーツ・レクリエーション祭は、その第２条の趣旨にあるように「スポレク祭は、県民が生涯にわたってスポーツを楽しみ、明るく豊かな生活ができるよう、生涯スポーツの普及・振興に寄与するものである」とあり、NPO法人富山県ダンススポーツ連盟は全力でこの大会に取り組みました。お昼休みには、富山在住のロシアの子どもたちの「JELチビッ子クラブ」による演技発表も行なわれました。注目のジュニア団体戦は、２チームとも全国大会で活躍するチームで大接戦となりました。

笹山良一
富山県連盟会長

八木三郎大会副会長と
八木綾子副実行委員長

荒井市郎
副実行委員長

氷見市市民部福祉
介護課の坂下由紀氏

ジュニア団体戦

優勝
ハッピー Happyクローバー（富山県）

準優勝
レインボースマイルとやま
（富山県）

優勝　長澤良典・
長澤光枝組（新潟県）

中部ブロック選手権

シニアⅠ A級戦 スタンダード表彰式

DSCJ B級戦

スタンダード
表彰式

優勝
坂井雅嗣・風巻恵子組
（新潟県）

ラテン
表彰式

優勝
高橋栄司・
高橋貞子組
（長野県）

レディス戦

スタンダード
表彰式

優勝
安達あん珠・西嶋万葉組
（富山県）

ラテン
表彰式

優勝
堀　　真・
高橋夏月組
（富山県）

DSCJ C級戦

スタンダード優勝
山崎茂雄・大滝敏江組
（新潟県）

ラテン優勝
久保力也・大西陽来里組
（富山県）

プレジュニアⅡ
（共に15歳以下、女性同士可）

スタンダード優勝
堀　　真・松村愛花組
（富山県）

ラテン優勝
長谷川悠・
安達あん珠組（富山県）

ねんりんピック富山2018予選会

スタンダード・ラテン共に優勝
水野正彦・東海三重子組（富山県）

プレジュニアⅠ
（共に13歳以下、女性同士可）

スタンダード・ラテン共に優勝
西嶋万葉・岩崎咲希組（富山県）

第29回 世田谷区ダンススポーツ大会において 初のブラインドダンス競技開催！

2017年７月９日(日)／世田谷区立総合運動場体育館

保坂展人
世田谷区長

居樹保朗東京都
DS連盟会長

池田秀雄世田谷区
DS連盟会長

第29回世田谷区ダンススポーツ大会が開催され、初となる視覚障害者の大会が普及競技（ブラインドダンス：BD）として実施されました。世田谷区DS連盟には、『DSひまわり』というブラインドのダンスサークルが加盟しています。その中心となっている小瀬ご夫妻は、「数年来世田谷区DS連盟にブラインドダンスの競技会の開催を働き掛け、やっと念願がかなって開催されました」と、喜びを語ってくれました。

BD競技にはスタンダード22組、ラテン15組が出場し熱戦が繰り広げられました。遠く九州からは佐賀県や福岡県、関西からは和歌山県など遠方からの参加者もあり、一般競技選手や観客からも温かい応援が飛び交い、会場全体が心温まる爽やかな雰囲気に包まれました。BD選手の歓喜はひとしおだったと思います。

また、保坂展人世田谷区長が来場、BD競技の開催は世田谷区の障害福祉政策の実現に貢献している旨のお礼と激励のご挨拶がありました。テレビ取材（地域TV局：イッツコム）もあり、多いに注目された大会でした。入賞者表彰とは別に、BD出場者全員に「先駆け賞」（BD選手）と「貢献賞」（BD選手のお相手）が、主催者より贈呈されました。当日は、BD戦に対する運営側の配慮が随所に工夫され選手は「また競技会に出場したい」と意欲を持って、練習に励んで次に繋がっていくことでしょう。

もちろん当日は、DSCJ公認競技も沢山あり、会場は大変な賑わいでした。特に世田谷区長杯争奪戦（シニアⅡA級スタンダード、シニアⅡA級ラテン）は、大声援の中大いに盛り上がりました。

2020東京オリンピック・パラリンピックへの気運が高まる中、メディアでも障害者スポーツ（パラスポーツ）が取り上げられることが多くなり、パラスポーツへの関心と期待が高まっています。障害者のダンス分野では、既にNPO法人日本車いすダンススポーツ連盟（JWDSF）がJDSFに加盟しており、ブラインドダンス分野でも、スポーツとしてのブラインドダンスの今後の普及、発展が期待されます。めざせオリンピック！ パラリンピック！

ブラインド戦　スタンダード部門

優　勝 新谷紀夫・末永洋子組（神奈川県）
準優勝 北山義徳・北山智津代組（和歌山県）
第３位 小瀬一廣・小瀬安子組（東京都）
第４位 池田定道・田名後浩子組（東京都）
第５位 大谷晃也・笠羽明美組（神奈川県）
第６位 安達典生・越本悦子組（神奈川県）

ブラインド戦　ラテン部門

優　勝 北山義徳・北山智津代組（和歌山県）
準優勝 新谷紀夫・末永洋子組（神奈川県）
第３位 池田定道・田名後浩子組（東京都）
第４位 大谷晃也・笠羽明美組（神奈川県）
第５位 原田信章・松本玲子組（東京都）
第６位 佐藤　実・中山知子組（東京都）

シニアⅡA級戦

スタンダード入賞者

ラテン入賞者

ブラインド戦（スタンダード）

ブラインド戦では視覚障がい者がゼッケンをつけ、２人とも視覚障がい者の場合は、同じ番号を２人がつけました。そして、ブラインドダンス出場選手全員に先駆け賞・貢献賞が贈呈されました

My Dream

千葉県の船橋で活動を行なっているブラインドダンスサークル『しん』の河野徹です。

JDSF世田谷大会ではBD競技会を開催頂きありがとうございます。今まで年３回の競技会では少ないと思っていたところですが、世田谷区のブラインドダンス競技会は楽しかったです。男性・女性障害者部門、男女部門の区別なく競技するので、自分のレベルが明確になり、今後の励みになります。それと、単科戦ではなくW・Tのスタンダード総合とC・Rのラテン総合であり他団体と差別化の工夫をしていますね！ とにかく、障害者にとって、健常者の競技とルール上、ほとんど変わりなく競技が出来る楽しいスポーツは貴重です。

しかしながら、サークルでもBD競技会に参加するメンバー、ボランティアともに少なく困っています。私が慶應大学OBということもあり、学連OB・OGサロン（大学のダンス部で活動したOB・OGの集まり）にはコーチやパートナーでもお世話になっています。ただし、健常者同士の正規のカップルでアマチュア競技会に出ている人も多く、１回だけの約束で…、 という形が多いのが現状です。ボランティアパートナーに関しては健常者のサークルとの交流も大切です。すそ野を広げ盛り上がりたい、BDメンバーやボランティアの交流、コミュニケーションを活発にしたい、と考えています。

参加者に喜ばれる新しいかたちのパーティー
（千葉県ダンススポーツ連盟南支部の試み）

みなみの舞踏会ダンスパーティー

華やかなダンスタイム

2017年6月11日（日）／市原市勤労会館YOUホール

ダンススポーツ競技会が毎週末、全国各地で開催されていますが、それ以上に各地のコミュニティーセンターなどの公共施設では、毎日のように社交ダンスパーティーが開催されています。パーティーの最近の傾向としては、夜ではなく午後に開催されるものがほとんどで、しかも平日にも開催されていることから、参加者はリタイヤされた方やフルタイム勤務でない方が多くなっているようです。しかし、参加者が満足できるパーティーはそう数多くはありません。そんな中、千葉県ダンススポーツ連盟南支部で、参加者のニーズに合わせ全員が楽しめるような、新しいかたちのパーティーが開催されましたのでご紹介します。

このパーティーの特徴は、踊りたい人と踊れる、それもドレスを着て踊れるトライアルをメインにおいたことです。パーティーに参加して感じる不満は、たくさん踊れなかった、踊りたい人と踊れなかった、というのが一番多いようです。また、ドレスで踊る機会といえば、競技会に出場する以外ではホテルなどで行なわれる高価なパーティーでデモを踊る際に限られていましたが、最近では公共施設などで行なうリーズナブルなパーティーでの正装トライアルが人気のようです。そんな両方のニーズに応えたいと、今回のパーティーは企画されました。

その「みなみの舞踏会」は6月11日（日）、市原市勤労会館YOUホールで開催されました。主催の千葉南支部の理事が中心となってパーティーのコンセプトとトライアル募集を盛り込んだポスターを作り、1,500円の前売券200枚を発行したところ、売れ行きは好調で1か月足らずで完売となりました。パーティー当日は午前11時から

田中栄治みなみの舞踏会会長、千葉南支部渡辺英美支部長の挨拶で始まり、午前中は当日申込みができる平服トライアルを中心に行なわれ、午後からは男性は燕尾服又はベストで女性はドレスというドレストライアルが行なわれました。ドレストライアルは事前申込みとしましたが、希望者が大変多く、ワルツ・タンゴ・スローフォックストロットの各種目で、それぞれ1ヒート10組で12ヒートとなりました。これを6部に分けて行ない、延べ360組がドレストライアルを楽しみました。またトライアルの合間のダンスタイムでは煌びやかなドレスがひしめきあい、さながら王宮の舞踏会のような、競技会の練習時間のような賑やかさでした。

さて、参加されたお客様はどのような方が多いのかをお聞きすると、競技には出ていないがドレスを持っていてあちこちのパーティーで踊っている方、競技を引退しパーティーを楽しみとしている方、サークルの先生が複数の生徒さんを連れて実践の場として来られているグループ、息抜きで踊りに来ている競技選手など、様々な方々が参加されていました。5時間に及ぶ長いパーティーでしたが、踊る人と観る人が入れ替わりながら応援しあい、みんなで楽しむ雰囲気の中で、最後までダンスを楽しんでいました。特に現役の競技選手が普段の競技会では見せたことのないような笑顔で、伸び伸びダンスを楽しんでいたのがとても印象的でした。

また、もう一つの特徴は主催者側のスタッフも楽しんで踊っていたことです。パーティーのスタッフ、特に女性はダンスが大好きなのに、裏方に徹し踊ることができないことがよくありますが、このパーティーではスタッフであってもお客様と一緒に楽しむことにより全員で作り上げているという一体感が感じられました。次回は来年の1月13日（土）に予定されています。前売りで200名限定ですので、興味のある方はお早めに千葉南支部までお問い合わせください。　（JDSF広報部　奥水洋一）

千葉南支部
渡辺英美支部長

みなみの舞踏会
田中栄治会長

【参加者にインタビューしました！】

近藤隆さん・のぶ子さんご夫妻

トライアルを踊る近藤ご夫妻

「競技は10年くらいやっていましたが、孫がジュブナイルの競技を始め、送迎などの面倒を見ているうちに、自分たちの練習ができなくなり競技をやめてしまいました。ダンスは好きなので今でも練習していますが、二人で練習していると喧嘩になるので、コーチに見てもらっています。孫は残念ながらダンスをやめてしまったので、また競技に復活するかもしれません。今日のようなパーティーは気軽に楽しめてとても良いですね！」

永井奈緒美さん

渡辺支部長とトライアルを踊る永井奈緒美さん

「ダンスを再開して9か月経ちました。20歳のころ、渡辺支部長のサークルで少し教えていただきましたが、結婚を期にダンスをやめてしまいました。子供も独立し、またダンスを復活したいと思い再び渡辺支部長のサークルに入れていただきました。ダンスと園芸をやると幸せホルモンが出るということを聞いたことがあるので、これからもダンスを続けていきたいと思っています！」（永井さんは元準ミス市原で、今日のために新調したという黒とピンクのドレスがとてもお似合いでした）

2017ダンススポーツグランプリ in 大分
PDグランプリカップラテン

2018年WDSFスタンダード世界選手権代表選考会／2018年WDSFシニアⅠラテン世界選手権代表選考会
2017年WDSF－PDラテン世界選手権代表選考競技会

2017年４月16日(日)／別府市総合体育館べっぷアリーナ

「グランプリシリーズで、三つの世界選手権代表選考会を行なうのは初めてとなりました」と山口剛競技本部長の挨拶で開会式は始まりました。ご来賓の阿南寿和別府市副市長は「全国各地から多くの選手をお迎えして“おんせん県おんせん市・べっぷ”において盛大に開催されることを大歓迎します。日本一の湧出量・源泉数を誇り別府八湯といわれる市内各地の温泉で多様な泉質をお楽しみいただきたい！」と挨拶されました。

阿南寿和別府市副市長

開会式で挨拶する山口剛競技本部長

グランプリスタンダード

2017年ダンススポーツグランプリの最初の大会です。３月12日の東京オープンで見事に準決勝進出を果たした小嶋組が、スピード溢れるステップワークと全身を使った表現力で完成度の高いダンスを見せ、５種目全てに１位で貫禄の優勝を果たした。準優勝はやはり５種目全て２位を獲得した大西組、八谷組が第３位となりました。第４位は三笠宮杯ファイナリストとして定着した山田組、第５位は一ツ橋大OBの佐藤組、第６位はグランプリ初ファイナルの加地組でした。

小嶋みなと・盛田めぐみ 組(神奈川県)

大西大晶・大西咲菜 組(富山県)

八谷和樹・皆川　円 組(千葉県)

山田恭平・秋山彩織 組(東京都)

佐藤祐馬・久保田理沙 組(東京都)

加地　渉・今橋紗希 組(埼玉県)

優勝インタビュー

小嶋みなと・盛田めぐみ組

「一昨年の沖縄グランプリ以来国内では負けがありません。社会人一年生だったので海外はあまり行けなかったのですが、今年は２ヵ月に１回程度は海外に。まずはアジアの大会で実績を積んでから、世界に挑戦していきます。ジャーマンオープンや世界選手権セミファイナルを狙います。僕たちにとって2010年アジア大会は貴重な経験でした（銅メダル獲得）。当時は高校生、あれからもう７年ですが僕たちは、まだまだ若手です。次の世代（藤井創太組や八谷組、大西組）がうまいので、負けないように頑張ります！」

シニアⅠラテン競技表彰式終了後に記念撮影。
左から山口競技本部長、名越組、キンタロー。組（岸英明・田中志保）
藍沢九州ブロック委員長、治面地コーチ、神宮広報部顧問

PDグランプリカップラテン

表彰式

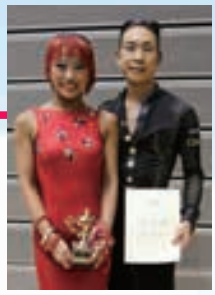
久保田弓椰・
徳野夏海 組（北海道）

岸田　肇・
岡田祐子 組（埼玉県）

西村康宏・鳥尾綾香 組（東京都）

優勝インタビュー

久保田弓椰・徳野夏海組



「カップル組んで２ヵ月でPD競技会４戦して全て優勝。徳野さんは高校２年生になったばかり。お互いに家族のサポートが厚いのでしっかり練習して、長く続けていきたい。夏美さんのリーダーがいなかったので、歳の差に関係なく、どんなレベルの相手でも組んで踊れることが今は嬉しいです！」

西　恭平・西川真由 組（東京都）

新屋秀和・滝川絵里 組（大阪府）

玉尾春樹・栗原文子 組（東京都）

シニアⅠ ラテン

名越慎悟・名越明子 組（神奈川県）

「キンタロー。組がどんどん上手くなっているので、とにかく優勝できてほっとしています。世界選手権日本代表として頑張ります。パートナーもー生懸命練習してくれて、感謝です！」

岸　英明・田中志保 組（東京都）

パソとジャイブで少し滑って失敗というアクシデントもありましたが、（名越組に）負けて悔しいです！

優勝できなくて残念！

表彰式

山本匠晃 TBSアナウンサー

「今日は『中居正広の金曜日のスマイルたちへ』通称「キンスマ」の番組のアナウンサーとして、キンタロー。組の取材に来ました。今は複雑な心境ですが、ダンスはこれからも続けていきたいと思います」

宗形隆史・宗形葉子 組（埼玉県）

キラ星み～つけた！

宇台孝之助・柴田里奈組（大分県）

D級戦スタンダード　準優勝

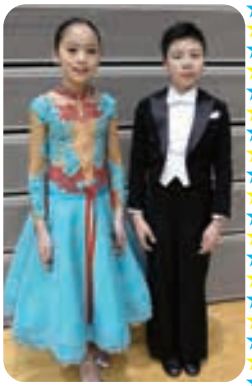
中学１年と24歳OLのカップルです。大分市と北九州市のミニ遠距離カップル。週２～３回１時間程度の練習ですが、精一杯練習しています。柴田さんはダンス歴21年、プロを目指しています。自分たちの目標が達成できるように努力したいと語ってくれました。宇台君は、スタンダードは初めての大会でした！

あこがれの久保田組と一緒に！

神武　晴・池田結咲組（福岡県）

B級戦スタンダード最終予選進出

中学１年12歳と小学６年11歳のカップル。組んでまだ４か月。ダンス教室のジュニア練習会で組みました。週４回ジュニアの仲間と一緒に練習しています。今日は大人の踊りの中に紛れないように外廻りで踊るようにしました。オールジャパンジュニア目指して頑張ると大張り切りです。



JDSF
Japan DanceSport Federation
DSCJ公認No.171004
PD公認No.P171002

第37回三笠宮杯 全日本ダンススポーツ選手権

The 37th Imperial Highness Prince Mikasa Cup All Japan DanceSport Championships

JDSFダンススポーツランキングポイント取得競技会 ／ WDSF世界選手権代表選考

2017年10月8日(日)8:45~20:30

東京体育館
◆JR総武線　千駄ヶ谷駅前
◆都営大江戸線　国立競技場駅前

全日本PDダンススポーツ選手権(毎日新聞社杯併賞)
JOCジュニアオリンピックカップ全日本選手権ジュニア
毎日新聞社杯全日本選手権ジュブナイル

入場料/前売券(AA席、A席は座席指定)	一般●AA席 6,000円／A席 5,000円／B席 3,000円／C席 500円 会員●AA席 5,000円／A席 4,000円／B席 2,500円

【入場券のお申込み】JDSF会員は各所属団体へ。
【一般入場券のお問合せ・お申込み】
大会事務局：公益社団法人日本ダンススポーツ連盟内「三笠宮杯実行委員会」
Tel:03-6457-1858　Fax:03-6457-1857
※電話でのお問い合せは、13時~17時(土・日・祝日除く)にお願い致します。

ホームページ http://www.jdsf.or.jp/

主　　催：公益社団法人 日本ダンススポーツ連盟(JDSF)／
公益財団法人 東京都スポーツ文化事業団／東京都ダンススポーツ連盟
特別協賛：ブルボン
特別後援：毎日新聞社(申)
後　　援：スポーツ庁(申)／東京都(申)／公益財団法人 日本体育協会(申)／
公益財団法人 日本オリンピック委員会(申)

10月8日のチケットはインターネットからも購入できます!
ぴあ http://pia.jp/t/　☎0570-02-9999　e+ イープラス http://eplus.jp/jdsf/

おいしさ、思いやり、いつもいっしょに。
ブルボン
Since 1924

ブルボンは、公益社団法人日本ダンススポーツ連盟の活動を応援しています。

ダンス・ダンス・ダンス
第84号(SUMMER)
平成29年8月発行

■発行人／山田　淳(公益社団法人日本ダンススポーツ連盟専務理事)
■編集長／神宮周二(公益社団法人日本ダンススポーツ連盟広報部)
■企　画／公益社団法人日本ダンススポーツ連盟広報部
■発行所／公益社団法人日本ダンススポーツ連盟
〒135-0063 東京都江東区有明3-4-2 有明センタービル1階　TEL.03-6457-1850　FAX.03-6457-1857
http://www.jdsf.or.jp

ⓒ本誌の記事・写真の無断転載を禁じます。